

中学生の宗教意識と家の宗教との関係

石黒 鈺二
酒井 亮爾
山田 ゆかり

一、目的

この研究の目的は中学生の宗教意識について、中学生自身が認知している家の宗教とそれがどのような関係にあるかを、質問紙調査によって明らかにすることである。さきに実施した高校生の調査（一九八七）では、家の宗教が仏教および新宗教のものと家の宗教がないとするものを比較して、次の点が明らかとなった。すなわち、家の宗教が仏教の生徒は祖先祭祀を中心とする宗教儀礼への参加を契機として信仰を深めるが、宗教的信念を固めるにはやや足りないものがあった。新宗教の家の生徒は家族の積極的な社会的宗教的活動に対応するように、寺院（神社・教会）に接近し、宗教的信念

中学生の宗教意識と家の宗教との関係（石黒・酒井・山田）

を固めて信仰を深め、宗教経験をもちことが多い。家の宗教がない、もしくはそれに無関心な生徒は、全般に宗教意識が低い。しかし願望の充足を呪術と神仏への祈禱に託するという点では他の二群と異なるところがなく、合理主義的で反宗教的信念の保持者とは考えられない。

さきの研究（一九八五）で、宗教意識は中学生から高校生へと漸次低下する傾向が認められたが、家の宗教別に分けてみた場合、そこにどのような変化と差異がみられるであろうか。ここではこの点について特に究明したい。

わが国では神道も仏教も一般に個人の宗教として考えられず、神道は地域社会と結びついて地域の安全と繁昌を祈願する町や村の宗教であり、仏教は家と結びついて死者の鎮魂と

攘災を祈願する家の宗教であるという色彩が強い。そして病・貧・争などの苦悩の除去や成功・富の獲得というような個人的願望はその呪術的側面と結びつくにすぎないという傾向がある。

しかし核家族化が進み、住民の移動が多い現代の都市においては、伝統的宗教は個々の都市生活者に対する影響力あるいはその抱える苦悩や不安に十分対応しえない状況である。その空隙を埋め、積極的にそれらの願望に応えるものとして、新宗教が多く信者を獲得することになったと言われている。新宗教には天理教・創価学会・立正佼正会・ピーエル・生長の家などが含まれるが、いずれも野外伝道、家庭法座、コミュニティ集会など方法は異なるけれども積極的な宗教活動を展開し、それを媒介として現世利益的・实际的信条と結びついた信仰を育てたといわれている。

このような伝統的宗教と新宗教の差は、家庭における宗教儀礼への参加や宗教的訓練における差異をもたらし、子どもへの宗教意識の形成に大きな影響を与えるものと考えられる。わが国の公立学校では、信教の自由を保障するためにその教科課程から宗教教育が排除されており、それに低触することをおそれて教科の中で現代社会における宗教活動について触れ

ることを故意に避けている風がある。（増谷文雄、一九七五）そこで児童青年の宗教意識の形成に対して家庭や社会の宗教的環境による影響が大きな比重を占めることになるのである。特に家庭内で行なわれる宗教教育は、地域社会のそれとの関連により共通性を持つとしても、それぞれの家に特有の宗教宗派によって多様であり、その影響力の強さもさまざまであると考えられる。

以上の観点から、さきに実施した高校生の調査（一九八七）の場合と同様に、仏教と新宗教の家の生徒と、家の宗教がないか、もしくはそれに無関心の生徒について、その宗教意識を比較検討することとする。

二、方法

さきに作成した宗教意識の調査項目（一九八四）を再検討した結果に基づき四項目を削除して、調査A二五問、調査B一六問合計四一問の質問項目とし、その調査結果を分析する。削除した項目は原案の質問紙で項目番号A2、3、14（いずれも条件付命題）とB12（他項目との相関がほとんど認められない）であった。調査Aは「宗教的信念と信仰」に關係し、調査Bは「宗教的実践」に關係する質問によって構

表 1. 調査対象(人数)

中 学	男 子		女 子		計		合計
	有効	無効	有効	無効	有効	無効	
N S T A F	56	0	60	0	116	1	117
	65	0	54	0	119	1	120
	80	1	83	0	163	1	164
	40	1	43	0	83	1	84
	59	2	64	0	123	2	125
計	300	4	304	0	604	6	610
百分比	98.7	1.3	100	0	99.0	1.0	100

表 2. 家の宗教 (有効回答のみ：%)

性 別	男 子		女 子		合 計	
	人数	%	人数	%	人数	%
家の宗教						
仏教	192	64.0	192	63.1	384	63.6
神道	1	0.3	8	2.6	9	1.5
キリスト教	8	2.7	9	3.0	17	2.8
新興宗教	5	1.7	3	1.0	8	1.3
その他	22	7.3	14	4.6	36	6.0
無宗教	72	24.0	78	25.7	150	24.8

成されている。調査項目及びその質問形式は高校生に対する前の調査(一九八五b)と同じであるから、それを参照されたい。

調査対象は愛知・奈良・岐阜の五校(愛知はN・T・A、奈良はS、岐阜はF)で男女別人数は表1に示す。なおA校

中学生の宗教意識と家の宗教との関係(石黒・酒井・山田)

は大都市内、他は小都市またはその近郊地域にある学校である。中学生自身が報告した家の宗教は表2に示す。表1にみられるように、無回答またはたためた回答と認められ、無効として除去された回答用紙は全体の1%にすぎない。調査対象の中学生がこの調査に対して非常に協力的であったと言える。

ここで家の宗教による比較の対象となった中学生は表2のうち人数の多い「仏教群」三八四名、「新宗教群」三六名、「なし群」一五〇名である。新宗教には天理教、金光教、創価学会、ピエール、立正佼正会、生長の家などが含まれる。いずれも生徒が直接記述したものによる。「なし」には無記入、「わからない」「なし」の回答が含まれるが、「知られにくい」ための拒否は大てい除去された無効回答に含まれていると考えられるので、「なし」は無知・無関心または家で宗教活動が見られないというものが大多数とみてよからう。便宜上これを「無宗教群」と呼ぶことにする。ただしそれは中学生自身が認知していることであって、家族が全く無宗教であるとは限らない。

調査者は大部分研究者自身であるが、一部の対象校ではその学校の都合により先生方の援助を受けた場合もある。

表 3-1 因子分析の結果 (バリマックス回転後)

* 印は逆転項目

因子	項 目	1	2	3	h ²
信 仰	1. 神 (仏) をまったく信じないという考えは、社会にとって有害である。	.35	.27	-.08	.20
	2. 宗教を信じていれば、死が近づいたときにも安心感をたもつことができる。	.56	.30	-.04	.40
	3. 多くのむずかしい問題は神 (仏) に祈ることによって解決される。	.57	.34	-.02	.44
	4. ほんとうに信心深い人は、生活のあらゆる面で道徳的な行動をしようとしている。	.44	.27	-.03	.27
	5. 信仰について迷っている人を助けることは、私の義務だと思っている。	.53	.23	-.06	.34
	6. 寺院 (神社, 教会) の奉仕活動をするのは、私のたのしみである。	.59	.18	.05	.38
	7. 寺院 (神社, 教会) は社会の人間関係をよくするのに、一番重要な場所である。	.72	.09	-.09	.54
	8. 寺院 (神社, 教会) は安息の場所、生活の苦しみをのがれる場所である。	.63	.20	-.11	.45
	9. 結婚式は寺院 (神社, 教会) であるのが一番よいと思う。	.38	.02	-.07	.15
	10. *寺院 (神社, 教会) は古くさい教義と中世的な迷信をたくさん押しつけようとしている。	-.41	-.17	-.52	.47
	11. 寺院 (神社, 教会) は個人や社会の正義を守り、押し進めるための強力なとりでである。	.61	.22	.07	.43
	12. *寺院 (神社, 教会) は人の心を救うのに、十分なことをしているとは思わない。	-.57	-.13	-.37	.48
宗 教 的 信 念	13. 私は神 (仏) があると信じている。	.31	.68	.20	.60
	14. 私はある人々が神 (仏) と言い、他の人々が天と言うものが、私よりも大きな力を持っていると信じている。	.23	.49	-.00	.29
	15. 人の一生は生まれたときから運命によってきめられている。	.13	.24	-.19	.11
	16. 人間の魂は死んだ後にも残ると思う。	-.02	.55	.06	.30
	17. 私はほんとうに天国 (極楽) と地獄があると思う。	.15	.54	-.08	.32
	18. 神 (仏) は信心深く生活する人に報いてくれる。	.41	.54	-.07	.46
	19. 私は神 (仏) がいつも慈愛をもって守ってくれていると思っている。	.34	.63	.15	.53
	20. 私は神 (仏) の救いによって罪を許され、新しい生活が自由にできるようになると信じている。	.37	.43	-.08	.33
	21. *人は神 (仏) を信じなくても、幸福で楽しい生活を送ることができると思う。	-.40	-.35	-.09	.29

中学生の宗教意識と家の宗教との関係 (石黒・酒井・山田)

宗教と科学	22. 人は生まれつき罪深く、けがれたものである。	.07	.03	-.28	.08
	23. 進化論は道理に合わない考えであって、社会に害毒を流す。	.06	.06	-.29	.09
	24. *科学が進歩すれば、神秘的（ふしぎ）なもののはすべて説明がつくようになる。	.01	.00	-.37	.13
	25. *宗教は科学的に考えることをさまたげる。	-.03	-.10	-.35	.13
	因子寄与	4.26	2.94	1.00	

表 3-2 因子分析の結果（バリマックス回転後）

因子	項 目	1	2	h ²
宗教経験と呪術	1. 私は何らかの形（人間の姿やそれ以外のもの）で、神（仏）が実際にあると感ずる。	.62	-.31	.48
	2. 私は神（仏）の助けを受けていると感ずる。	.62	-.29	.47
	3. 私は何か変わったことがあったとき、神（仏）の恐ろしさを感じずる。	.68	-.18	.50
	4. 私は自分に何か悪いことが起ったとき、神（仏）の罰を受けたのではないかと感ずる。	.70	-.15	.51
	5. 私は悪魔に誘惑されているのではないかという気がする。	.47	-.09	.23
	6. 身の安全や入試合格などの祈願のため寺院（神社、教会）に行く。	.48	-.16	.25
	7. おみくじや占いをする。	.37	.08	.15
	8. お守りやおふだなど、魔よけや縁起ものを自分の身のまわりにつけている。	.34	-.14	.13
宗教的行為	9. 友人や近所の人や勉強仲間と、宗教のことについて話し合う。	.05	-.62	.39
	10. 家族に、自分の信仰や宗教活動について話す。	.16	-.73	.56
	11. 聖書や経典など、宗教に関係のある本を読む。	.12	-.65	.43
	12. いろいろな出来事を宗教に関係させて考える。	.42	-.46	.39
	13. 宗教団体の募金運動があるとき、進んで献金する。	.29	-.36	.21
	14. 宗教上のきまった日（祭日など）には寺院（神社、教会）に行く。	.14	-.59	.37
	15. 寺院（神社、教会）でおこなっているお勤めや修行など、宗教的行事に参加する。	.12	-.61	.39
	16. 宗教上のきまった日に墓参りをする。	.19	-.20	.08
	因子寄与	2.80	2.73	

中学生の宗教意識と家の宗教との関係(石黒・酒井・山田)

調査期日はN校(一九八三年二月)、S校(一九八四年二月)、T校(一九八七年二月)、A校とF校(一九八七年三月)である。

三、結果と考察

(一) 宗教意識の因子構造

宗教意識は多次元の宗教経験の複合体であって、それは内面的な知的・イデオロギー的次元と経験的・儀礼的次元に分けられる。前者を宗教的信念と信仰、後者を宗教的实践という、従来の研究から、前者は五個の領域(一般的宗教的信念・宗教的信条の認否・宗教と科学・信仰・寺院・神社・教会)の意義と役割)を含み、後者は四個の領域(宗教経験・個人的宗教的行為・宗教儀礼への参加・呪術)を含むと考えられている。この調査においても、この観点から各領域にわたり質問項目を選定して質問紙を構成している。しかしさきの調査(一九八五a)で中学生においても因子分析の結果は必ずしも各領域の質問項目に対応する因子が抽出されないで、二三の領域の質問項目が混交して一因子を構成する場合がしばしばあった。また地域間、男女間、学年段階間にも因子を構成する項目の異同が認められた。

そこでまずわが国の中学生について再検討し、その因子構造を明確にした上で、宗教意識の比較分析を進めることにする。前述の41項目すなわち「宗教的信念と信仰」25項目、「宗教的实践」16項目について、それぞれ主因子解を施し、バリマックス回転を行なった。その結果を示したものが、表3-1及び3-2である。因子をまとめるに当たっては、項目の負荷量40以上を基準としたが、全体との関連を考え、また高校生因子との対応をも考慮して、それ以下の項目を含めた場合がある。

このようにして得られた因子は、宗教的信念と信仰(表3-1)においては、第一因子「信仰と寺院・神社・教会」の役割(以下「信仰」と呼ぶ)と第二因子「宗教的信念と信条の認否」(以下「宗教的信念」と呼ぶ)及び第三因子「宗教と科学」の三因子である。「宗教と科学」は因子を構成する項目の負荷量が全般に低いが、米国の大学生(一九八四)や台湾の中学生(一九八六)ではその負荷量が高いので、この四項目を宗教意識を知るための一因子として認めることとする。

次に宗教的实践(表3-2)においては、第一因子「宗教経験と呪術」、第二因子「個人的宗教的行為と宗教儀礼への参加」(以下「宗教的行為」と呼ぶ)である。項目12「宗教上のき

表 4 「宗教的信念と信仰」と「宗教的实践」との項目間の相関

因子		宗教経験と呪術								宗教的行為							
調査 B \ 調査 A		1、 神仏の 実在を 感ずる	2、 神仏の 助けを 感ずる	3、 神仏の 恐ろし さを感 ずる	4、 神仏の 罰を感 ずる	5、 悪魔の 誘惑を 感ずる	6、 安全や 入試合 格を祈 願	7、 おみく じや占 いをす る	8、 お守り やおふ だを身 につけ る	9、 友人や 隣人と 宗教を 語る	10、 家族に 自分の 宗教活 動を話 す	11、 聖書や 経典を 読む	12、 事件と 宗教の 関係を 考える	13、 宗教団 体の募 金に応 ずる	14、 祭日な どに寺 院に行 く	15、 寺院の 宗教行 事に参 加	16、 宗教上 のきま まった 日に墓 参
信	1	.24	.25	.22	.25	.15							.23				
	2	.29	.36	.24	.27		.19			.19	.24		.27		.16	.21	
	3	.22	.41	.19	.25					.15	.30	.18	.30	.20	.19	.23	
	4	.28	.28	.19	.25						.17		.26				
	5	.25	.28		.22					.16	.28		.25	.19	.17	.27	
	6	.29	.32	.18	.21					.21	.33	.27	.32	.24	.25	.27	
	7	.25	.28		.22		.15				.19		.23	.20	.16	.21	
	8	.26	.28	.19	.26						.21	.17	.28	.15		.15	
	9			.16	.16		.20								.15		
	10	-.30	-.32	-.21	-.27		-.15			-.18	-.27	-.19	-.29	-.18	-.23	-.15	
	11	.31	.35	.26	.29		.15			.15	.24		.30	.24	.21	.21	
	12	-.25	-.33	-.15	-.23						-.22	-.15	-.29	-.20	-.16	-.15	
宗教的 信念	13	.42	.45	.32	.39		.21		.18	.22	.30	.26	.32	.18	.20	.21	
	14	.23	.21	.16	.25		.15						.19				
	15				.15												
	16	.29	.21	.26	.24	.23	.18	.15	.15			.15	.16				
	17	.23	.21	.27	.27	.17	.22	.16					.15				.17
	18	.28	.32	.19	.29						.19	.15	.26				
	19	.32	.45	.29	.30		.19		.20	.21	.29	.21	.32	.18	.21	.18	.15
	20	.26	.29	.24	.27	.17				.18	.20	.18	.28	.15			
	21	-.25	-.37	-.20	-.24		-.15				-.22		-.24		-.20	-.19	
宗教と 科学	22					.19											
	23							-.15									
	24																
	25																

中学生の宗教意識と家の宗教との関係 (石黒・酒井・山田)

注. 有意水準 $.025 + .025 = .05$ のときの r の信頼限界

$N=400$ ならば, $.1(0 \sim .2)$, $.15(.06 \sim .24)$, $.2(.12 \sim .29)$, $.3(.22 \sim .38)$

まった日に墓参」は負荷量が低く第一因子と第二因子の双方に均等に分かれているので、いずれにも属しないものとして別途に考察することにする。墓参が宗教的行為としては異質のものであるらしいことについては前にもしばしば指摘したところであるが、高校生の場合(一九八七)には呪術と結びついて一因子をなしていた。高校生では「宗教経験」と「呪術と祖先祭祀」が分かれて、「宗教的实践」が二因子をもって構成されていたが、中学生では宗教経験と呪術が一つになって二因子となっている。中学生の宗教的实践の領域の分化が高校生よりも進んでいないと考えることもできる。しかし「宗教経験」は宗教的行為に伴う感情あるいは体験であり、「呪術」は宗教的行為の一形式であるから、その点では区別できる。そこで中学生の経験内容としては両者に共通するものがあるのであるが、分析の便宜上ここでは分離して取扱うことにする。

ところで宗教的实践が宗教的信念や信仰に基づいて行なわれるならば、その人の宗教的行為はより明確に組織化されているといえるであろう。その程度を知る一つの手がかりとして、調査Aと調査Bの項目間の相関を調べてみよう。その結果を表4に示す。相関係数の信頼限界は人数が四〇〇のとき、

信頼水準〇・〇五とすれば、 $r = 1(0 \sim 2)$, $r = 15(06 \sim 24)$, $r = 2(12 \sim 29)$, $r = 3(22 \sim 38)$ である。そこで「項目間の相関係数.15以上」という基準を設定して、それに該当する項目を表示した。調査Aの項目と調査Bの項目との相関が高いということが、両項目間の因果関係を示すとは必ずしも言えないが、両者が密接な共存関係にあることの指標とはなるであろう。調査Aの項目10、12、21、24、25の五項目はいずれも逆転項目であるから、相関係数は負となって表われている。

宗教的信念や信仰と基準以上の有意な相関がほとんど認められない宗教的实践の項目には、B16「宗教上のきまつた日に墓参」とB7「おみくじや占いをする」がある。またB5「悪魔の誘惑を感じる」とB8「お守りやおふだを身につける」も少ない方(5個以下)である。墓参は一般には宗教儀礼の一種として認められているが、因子分析の結果では宗教経験や宗教的行為とは分離した行為として検出されている。中学生の意識では、墓参がA19「神(仏)は慈愛をもって守る」、A17「天国と地獄がある」という信念と結びついて、主として死者の鎮魂の儀礼と考えられ、既成宗教の宗教儀礼一般とはいくらも異質のものとして受容されていることが多い

表 5-1 家の宗教別応答数 (%) —— 宗教的信念と信仰

因子	調査A 宗教的信念と信仰	仏教 N=384			新宗教 N=36			無宗教 N=150		
		-	0	+	-	0	+	-	0	+
信 仰	1 無神論は社会に有害	31.5	48.2	20.3	30.6	47.2	22.2	40.0	46.0	14.0
	2 信仰あれば安心して死ぬ	30.0	36.7	33.3	13.9	44.4	41.7	36.7	40.7	22.7
	3 祈りは問題解決を助ける	49.2	34.4	16.4	27.8	27.8	44.4	56.0	32.7	11.3
	4 信心深い人は道徳的	8.6	36.2	55.2	16.7	33.3	50.0	8.0	50.0	42.0
	5 信仰に迷う人の救済は義務	25.8	59.4	14.8	13.9	50.0	36.1	32.6	56.7	10.7
	6 寺院の奉仕活動は楽しみ	38.8	52.6	8.6	27.8	52.8	19.4	49.3	46.7	4.0
	7 寺院は人間関係をよくする	25.5	46.4	28.1	8.3	66.7	25.0	22.7	57.3	20.0
	8 寺院は安息の場所	26.0	40.1	33.9	19.5	47.2	33.0	27.3	48.7	24.0
	9 結婚式は寺院がよい	20.8	48.2	36.0	25.0	44.4	30.6	21.3	50.0	28.7
	10* 寺院は教義と迷信押しつけ	12.5	48.7	38.8	8.3	38.9	52.8	16.7	57.3	26.0
	11 寺院は社会正義のとりで	18.5	61.2	20.3	13.9	47.2	38.9	22.0	58.0	20.0
	12* 寺院の救済活動は不十分	28.1	41.4	30.5	16.7	36.1	47.2	29.3	50.0	20.7
信 念	13 神(仏)があると信じている	6.0	27.6	66.4	0	25.0	75.0	6.0	37.3	56.7
	14 神, 仏, 天は偉大な力をもつ	13.8	34.1	52.1	8.3	33.3	58.4	10.0	42.7	47.3
	15 一生は運命により決まる	43.5	14.1	42.4	38.9	2.7	58.4	38.7	14.7	46.6
	16 死後にも魂が残る	7.6	19.8	72.6	5.5	16.7	77.8	7.3	26.7	66.0
	17 天国(極楽)と地獄がある	17.5	28.1	54.4	5.5	47.2	47.3	20.7	32.0	47.3
	18 神(仏)は信ずる人に報いる	16.7	30.2	53.1	16.7	27.8	55.5	16.0	37.3	46.7
	19 神(仏)は慈愛をもって守る	14.3	33.9	51.8	2.7	27.8	69.5	13.4	41.3	45.3
	20 神(仏)の救いで自由になる	31.8	41.1	27.1	11.1	50.0	38.9	28.0	56.7	15.3
	21* 信仰がなくても幸福はある	33.3	38.3	28.4	16.7	47.2	36.1	40.0	43.3	16.7
	宗 教 と 科 学	22 人は生まれつき罪深い	46.9	31.2	21.9	30.6	36.1	33.3	43.3	35.3
23 進化論は社会に有害である		39.3	51.0	9.6	38.9	55.6	5.5	28.7	64.0	7.3
24* 科学の進歩は神秘性を解消		20.8	19.8	59.4	13.9	25.0	61.1	18.0	26.7	55.3
25* 宗教は科学的思考に有害		27.6	56.0	16.4	22.2	47.2	30.6	20.0	63.3	16.7

中学生の宗教意識と家の宗教との関係 (石黒・酒井・山田)

注. + 非常に賛成と賛成, 0 どちらでもない, - 非常に反対と反対, ただし*印は応答を逆転して示してある。

表 5-2 家の宗教別応答数 (%) —— 宗教的实践

因子	調査B 宗教的实践	仏教 N=384				新宗教 N=36				無宗教 N=150			
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
宗 教 経 験	1 神(仏)の存在を感じる	25.0	26.1	35.9	13.0	19.4	25.0	41.7	13.9	38.6	28.7	28.0	4.7
	2 神(仏)の助けを感じる	21.6	30.0	34.9	13.5	5.6	33.3	36.1	25.0	34.7	32.7	24.6	8.0
	3 神(仏)の恐ろしさを感じる	38.8	31.0	22.1	8.1	25.0	30.6	30.6	13.8	49.3	30.7	16.0	4.0
	4 神(仏)の罰を感じる	27.6	31.8	38.4	12.2	13.8	27.8	27.8	30.6	36.0	28.7	28.0	7.3
	5 悪魔の誘惑を感じる	69.0	17.2	10.9	2.9	69.4	16.7	8.3	5.6	68.0	23.3	5.3	3.4
呪 術	6 安全や入試合格を祈願	10.7	20.3	39.3	29.7	11.1	22.2	41.7	25.0	16.0	28.0	34.7	21.3
	7 おみくじや占いをする	9.9	18.0	48.4	23.7	22.2	16.7	36.1	25.0	7.3	18.7	52.7	21.3
	8 お守りやおふだを身につける	27.6	25.0	24.7	22.7	36.1	16.7	30.5	16.7	31.3	30.0	18.7	20.0
宗 教 的 行 為	9 友人や隣人と宗教を語る	78.6	14.6	5.7	1.1	47.2	22.2	25.0	5.6	82.6	8.7	8.7	0
	10 家族に自分の宗教活動を話す	74.5	16.1	8.6	0.8	38.9	25.0	27.8	8.3	86.0	12.0	1.3	0.7
	11 聖書や経典を読む	65.6	23.4	8.9	2.1	30.6	41.7	19.4	8.3	74.7	20.0	5.3	0
	12 事件と宗教の関係を考える	59.4	28.9	9.9	1.8	33.4	36.1	22.2	8.3	76.0	20.6	2.7	0.7
	13 宗教団体の募金に応ずる	37.0	34.4	22.1	6.5	19.4	33.4	27.8	19.4	34.7	42.0	18.6	4.7
	14 祭日などに寺院に行く	51.6	23.2	16.1	9.1	16.7	36.1	22.2	25.0	68.7	18.6	8.0	4.7
	15 寺院の宗教行事に参加	68.7	18.8	8.6	3.9	25.0	33.4	22.2	19.4	85.3	11.3	2.7	0.7
16 宗教上のきまつた日に墓参	18.2	24.2	27.1	30.5	22.2	27.8	19.4	30.6	34.7	24.6	22.7	18.0	

注. 4 いつも, 3 ときどき, 2 まれに, 1 まったくない

表 6-1 家の宗教による宗教意識の差 (χ^2 検定)

因子	調査A	宗教的信念と信仰	仏教： 新宗教	仏教： 無宗教	新宗教： 無宗教
信仰	1	無神論は社会に有害			> **
	2	信仰あれば安心して死ぬる			> **
	3	祈りは問題解決を助ける	< **		> **
	4	信心深い人は道徳的		> **	> **
	5	信仰に迷う人の教済は義務	< **		> **
	6	寺院の奉仕活動は楽しみ			> **
	7	寺院は人間関係をよくする			> **
	8	寺院は安息の場所			> **
	9	結婚式は寺院がよい			> **
	10 Δ	寺院は教義と迷信を押しつけ			> **
	11	寺院は社会正義のとりで			> **
	12 Δ	寺院の教済活動は不十分			> **
宗教的信念	13	神(仏)があると信じている			> **
	14	神, 仏, 天は偉大な力をもつ			> **
	15	一生は運命により決まる	< *		> **
	16	死後にも魂が残る			> **
	17	天国(極楽)と地獄がある			> **
	18	神(仏)は信ずる人に報いる			> **
	19	神(仏)は慈愛をもって守る		> *	> **
	20	神(仏)の救いで自由になる		> *	> **
	21 Δ	信仰がなくても幸福はある			> **
宗教と科学	22	人は生まれつき罪深い			> **
	23	進化論は社会に有害である			> **
	24 Δ	科学の進歩は神秘性を解消		< *	> **
	25 Δ	宗教は科学的思考に有害		< *	> **

注. ** 有意水準. 01, * .05 Δ 印は逆転項目

中学生の宗教意識と家の宗教との関係 (石黒・酒井・山田)

表 6-2 家の宗教による宗教意識の差 (χ^2 検定)

因子	調査B	宗教的実践	仏教： 新宗教	仏教： 無宗教	新宗教： 無宗教
宗教経験	1	神(仏)の存在を感じずる		> **	> **
	2	神(仏)の助けを感じずる		> **	> **
	3	神(仏)の恐ろしさを感じずる			> **
	4	神(仏)の罰を感じずる	< *		> **
	5	悪魔の誘惑を感じずる			> **
呪術	6	安全や入試合格を祈願		> *	< *
	7	おみくじや占いをする			< *
	8	お守りやおふだを身につける			< *
宗教的行為	9	友人や隣人と宗教を語る	< **		> **
	10	家族に自分の宗教活動を話す	< **	> **	> **
	11	聖書や経典を読む	< **	> **	> **
	12	事件と宗教の関係を考える	< **	> **	> **
	13	宗教団体の募金に応ずる	< **	> **	> **
	14	祭日などに寺院に行く	< **	> **	> **
	15	寺院の宗教行事に参加	< **	> **	> **
	16	宗教上のきまった日に墓参		> **	> **

注. ** 有意水準. 01, * .05

ように思われる。

ここで注目されることは、B 6「安全や入試合格祈願」の項目が「宗教的信念と信仰」の各項目との間にかなり多く基準以上の相関をもつことである。これは該当項目が極めて少なかった先の調査（一九八五a）との顕著な差異である。調査人数が多くなったために低い相関係数が有意となったこともその一因と考えられる。それはともかく、B 7「おみくじや占いをする」B 8「お守りやおふだを身につける」でも二〜四項目で有意な相関があったことを考え合わせると、中学生がこれらの呪術—宗教的行為を全く宗教的信念や信仰の裏付けなしに行なっているのではないことがわかる。

次に逆に「宗教的信念と信仰」の項目で宗教的实践との関連性の薄いものは、A 22「人は生まれつき罪深い」、A 23「進化論は社会に有害である」、A 24「科学の進歩は神秘性を解消」A 25「宗教は科学的思考に有害」という「宗教と科学」の因子を構成する四項目と、A 15「一生は運命により決まる」(信念)、A 9「結婚式は寺院・神社・教会」(信仰)がよい(信仰)の二項目である。中学生が宗教的实践において科学との対立や矛盾を積極的に意識することが少ないことを示すものである。これは日本の仏教や神道の教義がそのような対

中学生の宗教意識と家の宗教との関係(石黒・酒井・山田)

決を迫るものをあまり含んでいないことによるのかもしれない。

(二)家の宗教による宗教意識の差異

仏教・新宗教・無宗教の各群の応答を項目別に集計して比較したものが表5-1、5-2である。調査A(表5-1)では「非常に賛成」と「賛成」を合わせて+とし、「どちらでもない」を0、「非常に反対」と「反対」を合わせて-として、応答数を百分比で示してある。ただし表中の逆転項目は賛成と反対を逆転して表示した。調査B(表5-2)では、4(いつも)、3(ときどき)、2(まれに)、1(まったくない)として応答数を百分比で示した。また項目別応答率について、三群相互間の差の有意性を χ^2 検定によって示したものが表6-1、6-2である。

まずはじめに回答率の多少について各群を比較してみよう。調査Aで賛成が三群とも50%以上の項目はA 13「神(仏)」があると信じている」、A 16「死後にも魂が残る」、A 24「科学の進歩は神秘性を解消しない」の三項目である。無宗教群だけが賛成50%以下の項目は、A 4「信心深い人は道徳的」、A 14「神、仏、天は偉大な力をもつ」、A 18「神(仏)は信ずる人に報いる」、A 19「神(仏)は慈愛をもって守る」の

表 7-1 因子別・3群の比較 (%)

因子	宗教的信念と信仰	家の宗教	反対	どちらでもない	賛成	有意水準 (χ^2 検定)
			-	0	+	
1	信仰	仏教	26.3	45.7	28.0	***
		新宗教	18.5	44.7	36.8	
		無宗教	30.2	49.5	20.3	
2	宗教的信念	仏教	20.5	29.7	49.8	***
		新宗教	11.7	30.9	57.4	
		無宗教	20.0	36.9	43.1	
3	宗教と科学	仏教	33.7	39.5	26.5	***
		新宗教	26.4	41.0	32.6	
		無宗教	27.5	47.3	25.2	

注. + 非常に賛成と賛成, 0 どちらでもない
 - 非常に反対と反対
 有意水準 *** 0.1%, ** 1%, * 5%

四項目である。ここに無宗教群の意識の低さを示す特徴をみることが出来る。また賛成が非常に少なく、三群共10%以下の項目はA23「進化論は社会に有害である」という一項目だ

中学生の宗教意識と家の宗教との関係 (石黒・酒井・山田)

表 7-2 因子別・3群の比較 (%)

因子	宗教的実践	家の宗教	まったくない	まれに	ときどき	いつも	有意水準 (χ^2 検定)
			1	2	3	4	
1	宗教経験	仏教	36.4	27.2	26.5	9.9	***
		新宗教	26.7	26.7	28.9	17.7	
		無宗教	45.3	28.8	20.4	5.5	
	呪術	仏教	16.1	21.1	37.5	25.3	n. s.
		新宗教	23.2	18.5	36.1	22.2	
		無宗教	18.2	25.6	35.3	20.9	
2	宗教的行為	仏教	62.2	22.8	11.4	3.6	***
		新宗教	30.2	32.5	23.8	13.5	
		無宗教	72.6	19.0	6.8	1.6	

注. 有意水準 *** 0.1%, ** 1%, * 5%

けであるが、新宗教群以外の二群で賛成が10%以下の項目には、A6「寺院・神社・教会Vの奉仕活動は楽しみ」があつて、ここに新宗教群の意識の他群と異なる点が明示されてい

る。

調査Bの「宗教的实践」で(いつも十ときどき)の回答率が三群共50%以上の項目は、B 6「安全や入試合格を祈願」とB 7「おみくじや占いをする」の2項目だけである。無宗教群だけが50%以下の項目は、B 4「神(仏)の罰を感じる」、B 16「宗教上のきまった日に墓参」の二項目で、これを無宗教群の宗教的実践の特徴とみることができよう。(いつも十ときどき)の回答率が三群とも10%以下の項目はないが、無宗教群のみ10%以下の項目は、B 5「悪魔の誘惑を感じる」、B 11「聖書や経典を読む」、B 12「事件と宗教の関係を考える」、B 15「寺院(神社・教会)の宗教行事に参加」の四項目あり、また新宗教群のみ10%以上の項目にB 9「友人や隣人と宗教を語る」、B 10「家族に自分の宗教活動を話す」の二項目がある。これらは無宗教群の宗教への接近の稀薄なこと、新宗教群の宗教への接近の緊密なことを示すものである。

また仏教群だけ50%以上の項目はないが、新宗教群だけが50%以上の項目には、B 1「神(仏)の实在を感じる」B 2「神(仏)の助けを感じる」の二項目がある。さらに50%以上あったB 4「神(仏)の罰を感じる」を加えると、宗教経

中学生の宗教意識と家の宗教との関係(石黒・酒井・山田)

験(体験)をもつものが特に多いということが新宗教群の顕著な特徴の一つと言えそうである。

次に項目毎に三群の回答率の差の有意性を χ^2 検定で調べた結果(表6-1、6-2)と、それをまとめて因子別に三群の差を χ^2 検定で調べた結果(表7-1、7-2)を示す。また因子別の集計結果を比較し易くするため、調査Aでは「賛成」の回答率、調査Bでは(いつも十ときどき)の回答率によって図示すると図1-1と図1-2になる。これらの資料を総合して次に三群を比較してみよう。

家の宗教が仏教の中学生(仏教群)は無宗教群に比べて「宗教的信念と信仰」では、4「信心深い人は道徳的」、20「神(仏)の救いで自由になる」の二項目でまさり、「宗教的实践」では1「神(仏)の实在を感じる」、2「神(仏)の助けを感じる」、6「安全や入試合格を祈願」、10「家族に自分の宗教活動を話す」、12「事件と宗教の関係を考える」、14「祭日などに寺院に行く」、15「寺院(神社・教会)の宗教行事に参加」、16「宗教上のきまった日に墓参」の八項目でまさる。逆に無宗教群の方がまさるのは、23「進化論は社会に有害である」(宗教と科学)の一項目だけである。さらに因子別にみると、仏教群は信仰、宗教的信念、宗教経験、宗

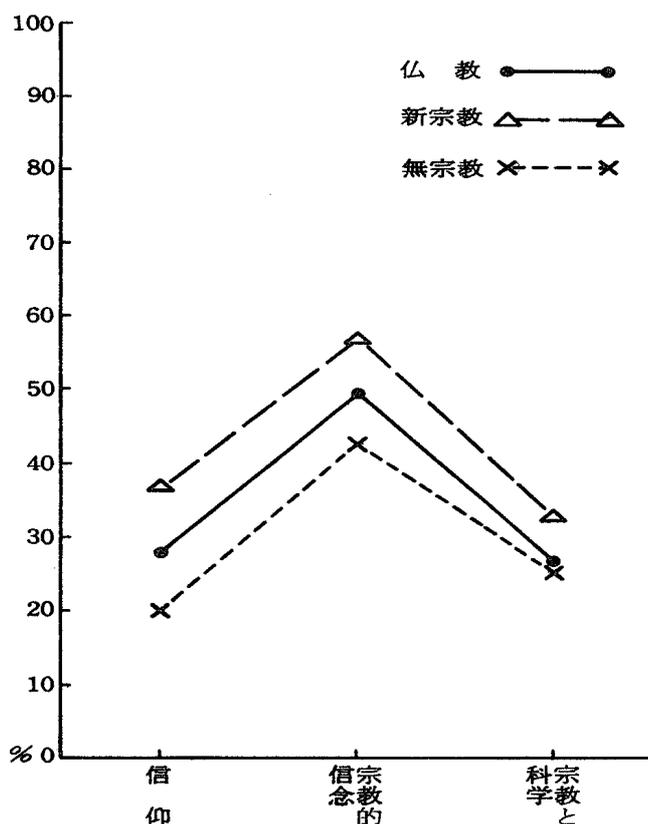


図1-1 因子別・3群の宗教意識
—宗教的 信念と信仰—
注「非常に賛成」+「賛成」の%

教的行為において無宗教群にまさり、墓参などの祖先祭祀に
対してより積極的であると言える。
家の宗教が新宗教の中学生(新宗教群)は無宗教群に比べ
て、「宗教的 信念と信仰」では2「信仰あれば安心して死ね
る」、3「祈りは問題解決を助ける」、4「信心深い人は道徳
的」、5「信仰に迷う人の救済は義務」、6「寺院(神社・教
会)の奉仕活動は楽しみ」、10「寺院(神社・教会)は教義

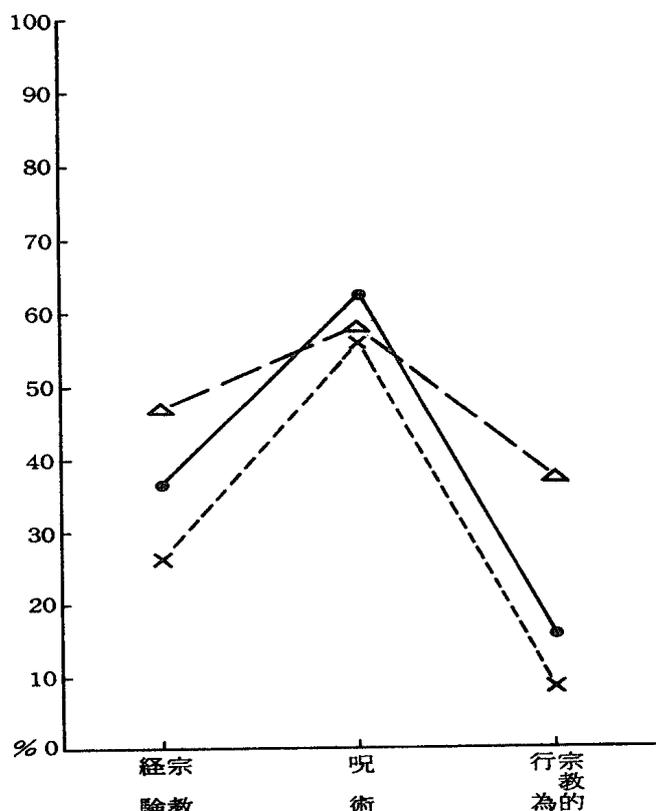


図1-2 因子別・3群の宗教意識
—宗教的 実践—
注「いつも」+「ときどき」の%

と迷信を押しつける」(反対)、12「寺院(神社・教会)の救
済活動は不十分」(反対)、13「神(仏)があると信じてい
る」、19「神(仏)は慈愛をもって守る」、20「神(仏)の救
いで自由になる」、21「信仰がなくても幸福はある」(反対)
の12項目でまさり、「宗教的 実践」では1「神(仏)の存在を
感ずる」、2「神(仏)の助けを感ずる」、3「神(仏)の恐
ろしさを感じる」、4「神(仏)の罰を感ずる」、9「友人や

隣人と宗教を語る」10、「家族に自分の宗教活動を話す」、「聖書や経典を読む」、12「事件と宗教の関係を考える」、13「宗教団体の募金に応ずる」、14「祭日などに寺院（神社・教会）に行く」、15「寺院（神社・教会）の宗教行事に参加」の11項目でまざる。逆に無宗教群の方がまざるのは7「おみくじや占いをする」の一項目だけである。

これをまとめて因子別にみると、新宗教群は信仰、宗教的信念、科学と宗教、宗教経験、宗教的行為で有意差をもって無宗教群にまさり、呪術においてだけ有意差が認められない。

次に仏教群と新宗教群を比較すると、仏教群の方がまざる項目はなく、「宗教的信念と信仰」の3「祈りは問題解決を助ける」、5「信仰に迷う人の救済は義務」、15「一生は運命によって決まる」の三項目で、また「宗教的実践」の4「神（仏）の罰を感じる」、9「友人や隣人と宗教を語る」、10「家族に自分の宗教活動を話す」、11「聖書や経典を読む」、12「事件と宗教の関係を考える」、13「宗教団体の募金に応ずる」、14「祭日などに寺院（神社・教会）に行く」、15「寺院（神社・教会）の宗教行事に参加」の八項目で新宗教群がまさっている。因子別にみると、信仰、宗教的信念、宗教と

中学生の宗教意識と家の宗教との関係（石黒・酒井・山田）

科学、宗教経験、宗教的行為で新宗教群が仏教群にまさり、呪術では両群間に有意差がみられない。

家の宗教について関知しない中学生（無宗教群）は、上述のように、A23「進化論は社会に有害」という意見で仏教群より反対が少なく、B7「おみくじや占いをする」（呪術）ことが新宗教群よりも多い。因子別にみると、信仰、宗教的信念、宗教経験、宗教的行為で他の二群より低く、宗教と科学及び呪術では他の二群との差がわずかである。

以上を総括すると、無宗教群の中学生は他の二群に比べて全般的に宗教意識が低く、特に宗教的行為が少ないが、呪術では他の二群に劣らず多い。また「科学の進歩は神秘性を解消」とか「進化論は社会に有害」という意見への反対が少ない。このことは無宗教群が明確に合理性を求め、反宗教的態度に徹するということではなく、願望の充足を呪術や神仏への祈禱に託そうとする現世利益的な呪術的信仰の持主であることを示している。

仏教群の中学生は無宗教群に比べて、全般的に宗教意識が高く、宗教的行為も多いが、新宗教群に比べれば、それほどではない。特に墓参りと安全や入試合格祈願で無宗教群以上に多いことが注目される。このことは仏教群の中学生が先祖供

養を中心とする伝統的な宗教儀礼への参加を通して、宗教的
信念を固め信仰を深めてはいるが、どちらかといえば呪術や
祈禱によって願望の充足を求めようとする呪術的信仰に傾斜
していることを物語っている。

新宗教群の中学生は、無宗教群に比べて全般的に宗教意識
が高いが、仏教群に比べても高く、特に寺院(神社・教会)
を媒介として行なわれる積極的な宗教活動を支持し、個人的
宗教的行為や宗教儀礼への参加も多い。そして現世利益的な
呪術に関しては他の二群より少ないくらいであるが、宗教経
験は最も多いのである。これはおそらく家の活発な社会的宗
教的活動に触発されて、寺院(神社・教会)の宗教活動に接
触する機会を多く持つことによってもたらされた変化である
う。

なおこの結果とさきの高校生の調査結果(一九八七)との
比較は重要で意義あることであるが、両資料の詳細な比較対
照を必要とするので、後にあらためて検討することにした
い。

四、要約

この研究は中学生の宗教意識について、中学生自身が認知

している家の宗教との関係を、質問紙調査によって明らかに
しようとしたものである。そのためまず調査結果に基づいて
宗教意識の因子構造を明らかにし、その各因子を構成する質
問項目について、家の宗教により分類された仏教群・新宗教
群・無宗教群の三群を比較検討した。

調査対象は、愛知・奈良・岐阜の三県下五校の中学生六〇
四名(男子三〇〇名、女子三〇四名)である。調査期日は一
九八三年三月～一九八七三月。質問項目は宗教的信念と信仰
に関する調査A 25項目、宗教的实践に関する調査B 16項目、
計41項目である。

因子分析の結果、調査Aから「信仰」「宗教的信念」「宗教
と科学」の三因子が、調査Bから「宗教経験と呪術」「宗教
的行為」の二因子がそれぞれ抽出された。なお宗教経験と呪
術は実践の内容の差異を明確にするため分離して検討した。
また宗教的行為の「墓参」に関する項目はこれらいずれの因
子にも含まれなかったが、宗教意識の一面を知る重要な資料
と考えたので合わせて検討の対象とした。

因子別に全体をみると、宗教的信念と呪術が高く、宗教的
行為が低い。次に因子別に三群を比べると、新宗教群は呪術
以外のすべての因子、すなわち信仰・宗教的信念・宗教と科

学・宗教経験及び宗教的行為で高く、無宗教群は呪術以外のすべての因子で低い。仏教群は呪術を除く他のすべての因子で中間にある。「墓参」については仏教群が最も高く、無宗教群が最も低い。呪術は宗教的实践の中で最も多いが、三群間にほとんど差がみられない。

仏教群は墓参など祖先祭祀を中心とする宗教儀礼への参加と関連して、宗教的信念や信仰を高揚し、宗教経験を多く得ることが多いが、現世利益につながる呪術信仰と結びつくことが多い。

新宗教群は家の積極的な社会的宗教的活動に触発されるためか、積極的に寺院（神社・教会）に接近し、個人的宗教的行為や宗教儀礼への参加が最も多く、宗教的信念や信仰を高揚し、宗教経験を多くすることが最も多い。

無宗教群は宗教的行為が最も少なく、寺院（神社・教会）の宗教活動に対しても最も疎遠であるが、現世利益的な願望充足を呪術や神仏への祈禱に託するという呪術—宗教的行為については、他の二群に劣らず多く、宗教と科学との関連についても他の二群と異なるところがない。無宗教群の中学生は特に科学的合理性を志向して反宗教的態度を堅持しているというわけではないようである。

中学生の宗教意識と家の宗教との関係（石黒・酒井・山田）

付記

この研究の実施にあたり、調査対象校の武田公雄・山岡伸吉・鳥山敏基・中村哲郎・久世敏雄・米山義信・寺田道夫の諸先生並びに生徒諸君から理解あるご援助・ご協力をいただいた。ここに記して感謝の意をあらわしたい。

〔引用文献〕

石黒鈺二・酒井亮爾（一九八四）青年の宗教意識に関する日米比較研究、愛知学院大学人間文化研究所紀要「人間文化」第一号、一—二二

石黒鈺二（一九八五a）児童青年の宗教意識における性差と地域差、愛知学院大学文学部紀要、第一四号、一—二八

石黒鈺二・酒井亮爾・山田ゆかり（一九八五b）高校生の宗教意識に関する研究—宗教教育の効果—、愛知学院大学禅研究所紀要、第一四号、三〇三—三二二

石黒鈺二・許心華・酒井亮爾・山田ゆかり（一九八六）児童青年の宗教意識における性差と地域差—台湾の場合—、愛知学院大学人間文化研究所紀要「人間文化」第二号、六〇—九五

石黒鈺二・酒井亮爾・山田ゆかり（一九八七）高校生の宗教意識に関する研究(2)—家の宗教との関係—、愛知学院大学禅研究所紀要第一五号、六一—七四

増谷文雄編（一九七五）現代青少年の宗教意識、鈴木出版